

第2回 保育のお仕事ステップアップ講座

日時：令和7年9月17日（水）

10時00分～

「障害児支援講座」

鈴木 侑里子 氏

13時00分～

「保育実践講座」

田所 順子 氏

場所：とちぎ福祉プラザ

「発達障害の基本的な理解と対応について」 栃木県発達障害者支援センター ふぉーゆう 鈴木侑里子氏

講座の内容

- 発達障害の定義
- 支援のポイント
- 「ペアレントプログラム」について



“障害児への理解と対応を学びたい”

という要望が多く、昨年同様、鈴木侑里子先生にご教授いただきました。自閉症（ASD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）のそれぞれの特性を知り、具体的な対応を学びました。「大人も当たり前」に視覚的支援を受けている」ということ、支援児にはより分かりやすい視覚的な環境を整えることで、少しでも過ごしやすくすることが大切ということを知りました。自己肯定感を上げるという「ペアレントプログラム」では、記述した内容を交換して見てもらう時間が設けられ、「すごいですね〜」などとお互いの日常の頑張りを称えあう声も聞こえてきました。静かに着座して話を聞くだけではなく、終始和やかな雰囲気でした。リピーターの参加者もいらっしゃいましたが、さらに学びが深まったという感想もあり、好評のうちに講座は終わりました。



《参加者の声》

- ・保育する上での室内の視覚的な環境設定の配慮や、子どもの困ったと感じる行動を「努力している」「いいところ」と視点を変えて捉えていく考え方の理解が深まりました。「見えないものを見えるようにする」「良いところを見つける」、保護者に良いところをどんどんお伝えできるようにしていきたいと思います。
- ・具体例が身近で、お話がとても分かりやすかったです。障害のない子への保育にも通じる事が多くあり、さっそく実践したいと思います。講師の先生のととても明るいお人柄が感じられよかったです。
- ・講義の中で出てきた支援児や困った子と同じような姿の子どもがクラスの中にもいるため、関わり方や支援の仕方がとても参考になりました。
- ・ペアレントは、なかなか冷静になれず…という時が多いですが、意識して子どもも自分も『いいところ』をたくさんみつけていこうと思いました。（ペアレント・プログラムの視点について）
- ・自分の現状把握表を作ってみて、困ったところを良いところに変換できることを知り、困った子の困ったところを具体的に出し、良いところに変換してみようと思いました。
- ・発達障がいのお子さんは脳の機能の仕方が違うということ、視覚的アプローチが大切、見通しをたてて指導するなど、実践的でした。
- ・発達障害について、改めて理解を深めることができました。また、支援についても具体的な方法を学ぶことができ、子ども一人一人の特性に応じた環境を整えていけるよう、今回学んだことを活かしていきたいです。
- ・色々な特性の子がいるので、決めつけずに一人一人のいいところに目を向け対応していきたいと思いました。つつい、「あそこ」や「そこ」など言ってしまいがちですが、具体的な伝え方を心がけていきたいです。

「保育実践講座」

講師：宇都宮共和大学 子ども生活学部

非常勤講師 田所 順子 氏



保育指針をどのように保育に取り入れていくのかを分かりやすく解説しており、講師オリジナルの替え歌は字余りで必然的に早口となり、歌うのに必死で自然と笑いがこぼれていました。昔話を語るとき、語尾に「あったと」とつけ加えると民話調になる方法や、けん玉遊び・あやとり等の昔の遊びを伝承するということも保育士の大切な役割であるということを学びました。巻物、忍法言葉当てクイズ、新聞破りの術等、講座は常に参加型で、参加者は多くの実践体験ができました。時間的に余裕があると思っていた講座も、先生の遊びの引き出しが多く、時間が足りないと感じる程、あっという間の2時間でした。先生自身が楽しんでおられ、参加者も自然と笑顔がこぼれ童心に還る様子が窺え、保育とはこういうことなのだ…と気付かされました。アイデア満載の講座はすぐにでも保育に活かせる内容でした。



《参加者の声》

- ・素話の話し方が面白く、昔話の語尾を変えるだけでそれっぽい雰囲気になるのを知り、ぜひやってみたいと思いました。保育士試験に挑戦しようと思っているので、とてもよい学びになりました。先生の語り口調がとても心地良く、語ることの楽しさと語りを聞く楽しさを感じることが出来ました。
- ・絵本・紙芝居・ペープサート等、物に頼ってしまうなかで、保育士一人の声・身振り・手振りのみのお話で夢中にさせてしまうことができることを学び、保育のやり方の一つとして知ることができ良かったです。
- ・長年の経験からくる多くの具体例を楽しく分かりやすく教えていただき良かったです。語呂合わせや替え歌にすることで発達・保育指針の重要なキーワードが覚えやすくなり、自分も覚えようと思えました。忍者の修行もがんばります！
- ・身近にあるもので子どもたちが喜ぶ物が作れるのだな、と新しい発見がありました。子どもを楽しませることが心情を動かし、意欲、態度につながっていくことが体感でき、技術をもっと磨きたいと思いました。先生が楽しむ姿に私も楽しくなりました。
- ・「目の前の子どもたちの様子を見ながら」という言葉が印象的でした。子どもたちと楽しむ、一緒に考える、とても大切だと思いました。保育者としての役割をしっかりと果たす努力をしようと思えました。
- ・文化や伝統に最近触れてなかったことに気付かされました。自分が子どものころ毎日のようにやっていたこと、覚えていたこと（あやとりなど）懐かしくて楽しかったです。昔のおじいちゃんおばあちゃんの有難みを感じて良い時間でした。



★次回の開催は、令和7年11月12日（水）とちぎ福祉プラザ（宇都宮市）にて開催します。

10:00～12:00

「幼児体育講座」宇都宮共和大学 副学長 子ども生活学部 教授 河田 隆 氏

13:00～15:00

「幼児造形講座」こども環境デザイン研究所

代表 矢生 秀仁 氏

参加希望の方は、

とちぎ保育士・保育所支援センター（028-307-4194）までご連絡ください。

申込みQRコードはこちら →

